

大学教育におけるオンライン授業の可能性 ー対面授業とオンライン授業の比較を通してー

九州大学 増田 健太郎

masuda.kentaro.908@m.kyushu-u.ac.jp



九州大学

自己紹介 増田健太郎

所属：九州大学大学院 人間環境学研究院 臨床心理学講座

専門：臨床心理学・教育経営学

資格 臨床心理士・公認心理師・博士(教育学)

教師のストレス いじめ 不登校 保護者クレーム 対人援助職のバーンアウト

授業・研修方法 不妊治療カウンセリング

海外比較研究 フィンランド・ノルウェー・アメリカ・スイス・オーストラリア等

「いじめ・不登校・教員のストレス」や「不妊カウンセリング」

企業アドバイザー 産婦人科心理カウンセラー

幼稚園高校アドバイザー

福岡市こども子育て審議会委員 福岡市適正処遇困難児童対応部会部会長

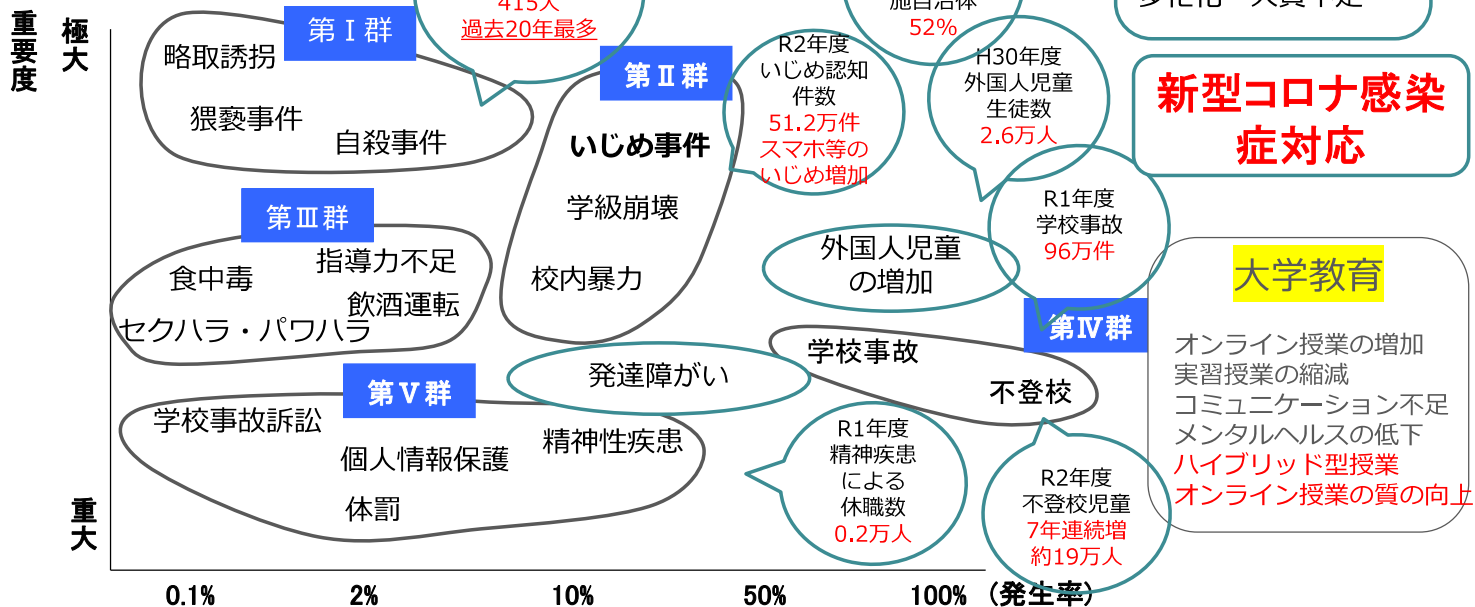
臨床心理分野専門職大学院協議会 会長

不登校の子どもに何が必要か編著 慶応義塾大学出版会 心理教育素材集監修 遠見書房

公認心理師分野別テキスト 理論と支援の展開 編著 等

学校がおかれている現状 増田(2021)

コロナ禍の影響の縦断的研究の必要性



A大学 教職課程の対面授業とオンライン授業の方法

A大学「教育課程と方法」2013年～19年対面 20年21年 オンライン

基本情報

- ①受講生 国立学部3年生例年60名-80名
- ②教育実習前
- ③9月中旬に実施
- ④9時から18時まで 5コマ×3日間
- ⑤ドロップアウトする学生はいない
- ⑥毎年授業評価を行っている

2018年19年 65+73名 **138名 対面**

2020年21年 75名+65名 **140名オンライン**

本発表の調査人数

双方向型・体験型
挙手機能・チャット・ブレイク
アウトルームの活用

授業内容と方法 授業の内容は同じ

○自発性を重視・指名はしない・挙手

1日目 **オンラインは画面オン**

- ①教育課程と方法についての知識
- ②1分間スピーチを各コマの最後
- ③ペアワーク・グループワークの活用

2日目

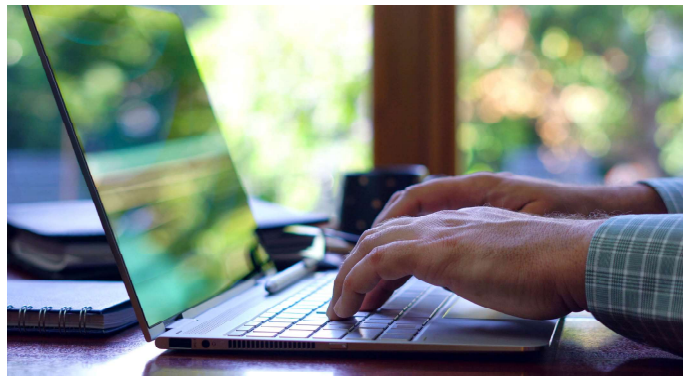
- ①教育方法論の演習
- ②模擬授業の指導案・授業準備 グループワーク

3日目 ①**模擬授業** ② **総括討論**

対面からオンライン授業へ



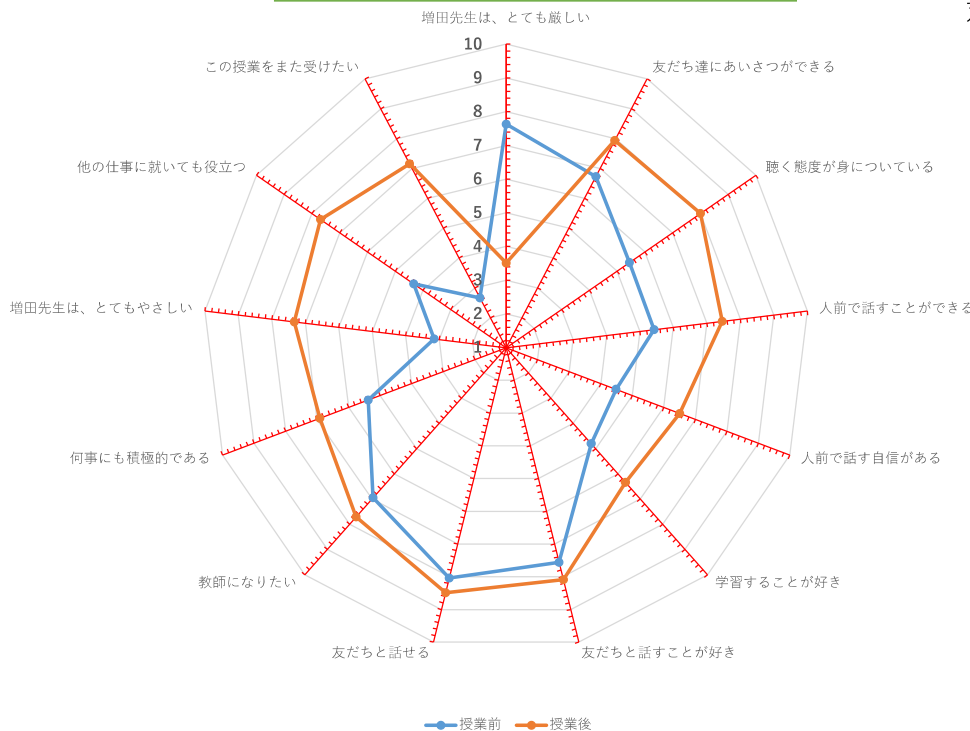
五感で感じる 100%
 他者の視線・態度の影響・雰囲気
 身体全体の疲れ



視覚(切り取られた画面)・聴覚(人工的な音声) 30%?
 観られている意識がない 目と身体の疲れ

主体性 責任 1対70 から 1対1

授業評価



対面授業前後の変化(2019年度)

授業前後の各項目の
 平均値の比較

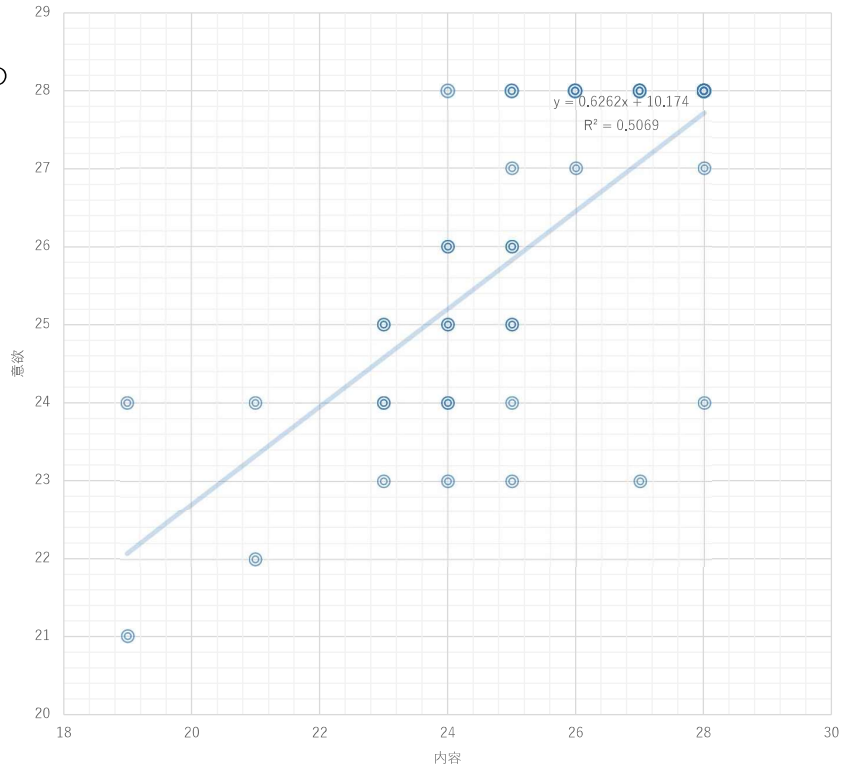
○授業を受けた後の
 評価が上がる。→授
 業の内容が受講生に
 にとって有益なもので
 あったと言える。

○コミュニケーション
 ン力が上昇する

授業内容と学習者の意欲の関係(2019年度)

下の表のように4項目を「意欲」「内容」の因子として、分析を行った。

	Q	質問内容	平均(28)
意欲	Q1	授業に関心意欲を持ち積極的に取組んだ	25.9
	Q3	この授業を受けてよかったと思う	
	Q5	「みんなが学んでいる」雰囲気があった	
	Q10	「やる気のでる」授業内容だった	
内容	Q2	授業の内容を理解できた	25.1
	Q4	授業内容の説明はわかりやすかった	
	Q11	アサーショントレーニングは役に立った	
	Q15	グループ・ワークは役に立った。	

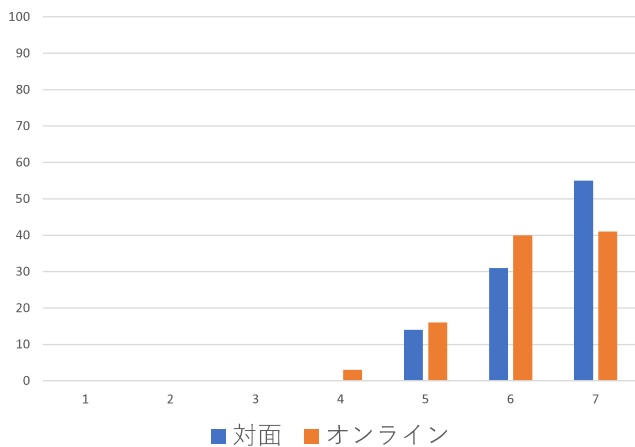


○授業内容が意欲に強く影響する。

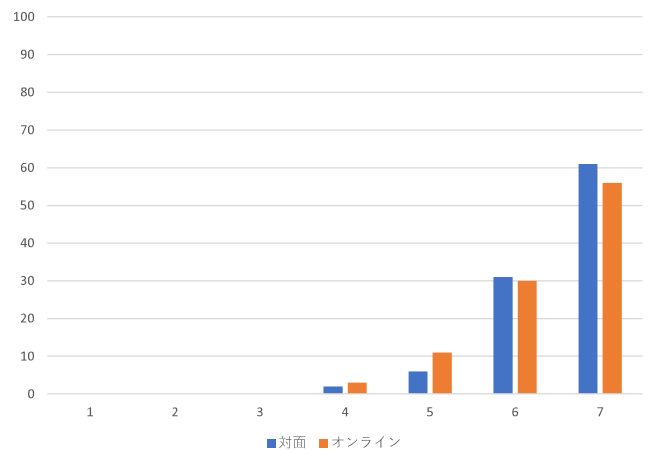


対面とオンライン授業評価比較(1) (7件法 %表示 138名・140名)

内容理解



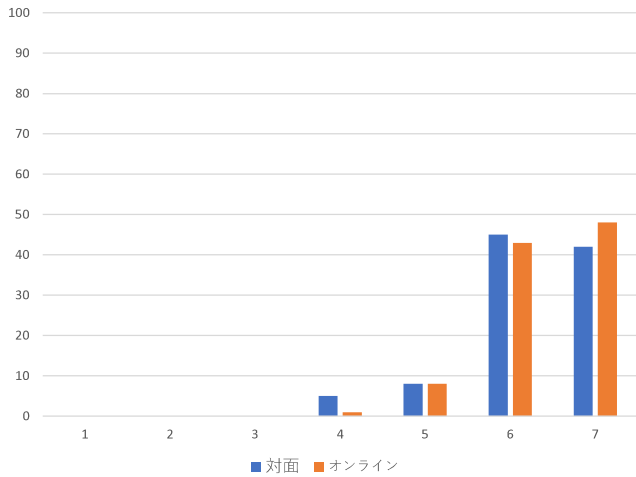
学ぶ雰囲気



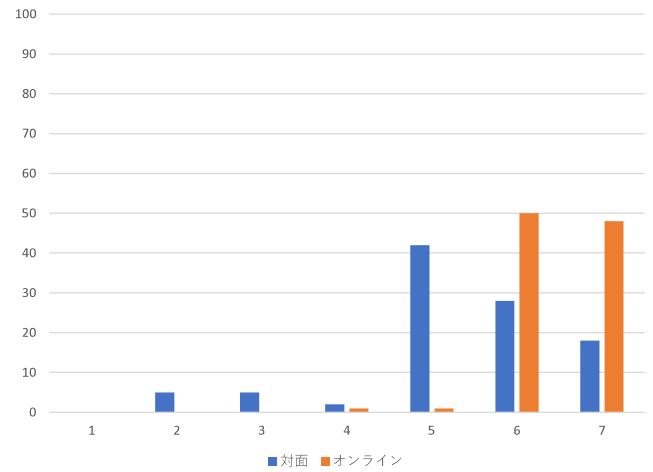
内容理解と学ぶ雰囲気に大きな差はみられない。
 オンラインでの学ぶ雰囲気→画面オン・グループワークの効用

授業評価の比較 (2)

モチベーションが高まったか



アサーショントレーニングの効用

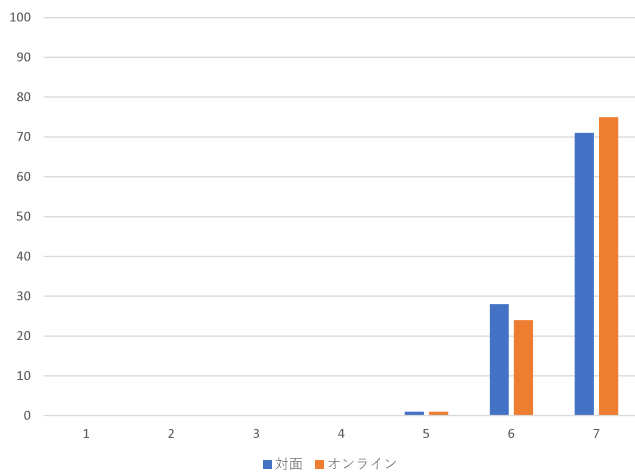


授業に対するモチベーションに大きな差はみられない。

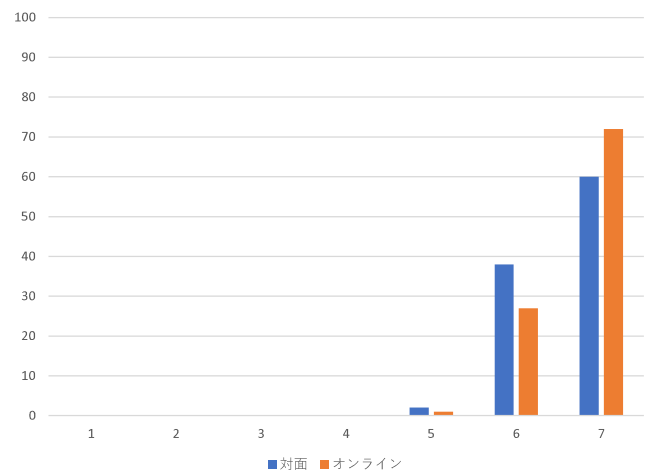
アサーショントレーニング→オンラインが有効・話し手・聴き手・観察者が明確になるため

授業評価の比較 (3)

グループワークの効用



模擬授業の効用



グループ・ワーク、模擬授業(グループで学習指導案を作成・教材準備・授業実践)は有効
対面とオンラインとも同じ時間・「話す・聴く・考える・創る」が授業満足に影響



グライダー論



授業の工夫

- ① 最初に授業参加するかの自己決定
- ② この授業での成長目標と自己評価
- ③ 契約 私語はしない・居眠りはしない
- ④ 最初の2コマは厳しく
- ⑤ 指名はしない 自発的発言の尊重
- ⑥ 発言に関してはポジティブフィードバック
- ⑦ 拡散的思考の活用
- ⑧ アサーショントレーニングの活用
- ⑨ グループワークの活用グループワーク工夫
※長時間の場合は、何をしても自由
- ⑩ **タイムマネジメント**
ジャストタイムではじめ、ジャストタイムで終わる

最終的には 自分で考え主体的に行動する社会人の育成 **アクティブ・ラーニングのオンライン版 パソコン使用**

- ① 機体の把握・コミュニケーションチャンネル合わせ →授業の契約・厳しめに・レディネスとニーズの把握
- ② 自立飛行 →グループワーク・グループ活動の活用 自由に
- ③ 困った時には、基地と交信 →質問・困った時のみサポート



感想の抜粋

- **オンライン授業のメリット**を生かして、様々な活動に積極的に取り組むことができました。**普段のオンライン授業は受け身の物ばかり**で、今回のように主体的に参加できる授業を受けることがとても楽しかったです。周りの学生も意欲的に活動していたのでとても刺激になりました。
- 3日間長い時間で大変ではありましたが、グループの仲間や講義を受けている**仲間と共に頑張る**ことができ非常に濃い三日間を過ごせることができました。この講義で学んだことは教職だけではなく、就職といった他の場でも使えるようなことが多くあってよかった。
- **グループワークや、チャット機能、三色カードを使うなど、参加型**でとても楽しかったです。授業作りや実際に授業をする中で難しい点も多くあり、不安な気持ちになりました。
- 3日間ありがとうございました。**オンラインでもこれだけ他者と関わりを持つことができるのか**と感心しました。
- コロナの影響でなかなか**ディスカッションをする機会**がなかったなか**オンラインではあったものディスカッション**ができて**楽しい時間を過ごせました**。ありがとうございました。
- かなり**長時間カメラをオンにし続ける授業はいままでなかった**ので**正直しんどかった**。(オンライン授業に慣れてしまっていて対面授業が全くないのもあるが)この授業を受けて**積極性が増した**と思っている。普段発表を進んでする方ではないがこの**授業では発表したいという意欲が自然とわいてきた**。
- 授業内容などは非常に興味深い内容などが多く楽しく授業を受けることが出来ました。しかし、集中講義なため仕方ない部分がありますが**3日間朝の9時から18時までの授業はどうしても疲れ**が出てくるために集中力や思考力が低下してしまったので、5日間くらいに分けてもらえると助かるなと思います。内容が濃く学んだことが多いからこそその疲労があったためこのように感じました。

■コロナ禍において

- ・大学生もコミュニケーションの時間/体験の不足
- ・メンタル面に影響 自尊感情の低下

■大学のオンライン授業において

- 双方向性・体験性 アクティブラーニング PC活用
- 課題設定・自己成長の確認・ポジティブフィードバック
- 雑談も含めたコミュニケーションの時間・場の提供